



**がんばれ高田 負けるな高田
できる できる できる!**

【校訓】

自主・協力・創造

文責 校長 大串 久隆

学校祭に向けて、各学年、奮闘中です。

10月1日は、高田中学校「学校祭」です。本校の校訓である「創造性」を発揮する最も大きな行事であり、そのために「自主」と「協力」を最大限に発揮しなければならないのもこの学校祭です。今回の通信では、学校祭に向けた生徒たちの取組の様子をお知らせしたいと思います。



学級の力を結集する合唱、1発勝負に向けて、根気強く活動中!

夕方、16時15分。学級のみんなが集まって、合唱練習をしています。各学級、新型コロナウイルス対策のために、ピロティや体育館など広い場所で練習しています。リーダーを中心に、みんなが協力して気持ちよく練習に参加している姿を微笑ましく思っています。これから、各学級の合唱が仕上げの段階に入っていきます。高みを目指せば目指すほど、その過程には、厳しさや難しさが生まれてきます。そして、そのパフォーマンスを1回きりの本番で確実に発揮するには、何回も何回も練習を繰り返して、間違いなく表現できる自信をつけることが大切になります。リーダーを中心として、学級全体が一丸となって、自分たちの合唱を作り上げることが重要です。今年の学校祭にどんなドラマが待っているのか、とても楽しみです。



技術室前ピロティ



玄関ピロティ



体育館

5代目高献(1年生)は、より良い商品づくりに、全力を投入中!

1年生は、丹精込めて作った梅をパック詰めして、商品の準備を行っています。商品部でたくさんのラベル図案を考え、今年は下の2つのラベルに決定しました。ぜひ、2種類のラベルを手に入れてください。広報部は、たくさんのポスター案から2つのポスターをつくり、いろいろな事業所において、掲示をさせていただきました。



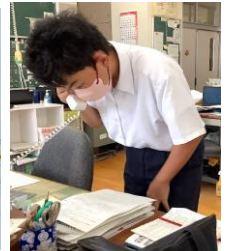
ラベル作成



今年の2種類のラベル



広報部のポスター案



ポスター掲示のお願い

4代目高献(2年生)は、梅干しをおいしくいただいてもらうためのレシピづくりにチャレンジ!

2年生は、「プロに学ぶ」を合言葉にして、西彼杵商工会の助言を受けながら、飲食店や食品製造業の皆様と協力して、梅干しを使ったレシピづくりを行いました。生徒が考えた料理アイデアを生かして、プロの皆さんが見事に料理に仕上げてくださいました。ぜひ、ご家庭で、親子で、一緒に料理をして、高田梅を味わってほしいです。

料理例紹介(レシピと料理名は当日のお楽しみ)



○梅○揚げ



梅○○○○中華



梅○○○鉄板

3年生は、本物の青龍で全力・全開の演舞練習中!

高田中ホームページのトップ画面のお知らせ(6月5日)に掲載していますとおり、諫早市高来町金崎地区の金崎龍踊り保存会から、本物の龍体(青龍)を寄贈していただきました。とても高価なものであり、何よりも金崎地区の方々の大切な思いのこもった龍です。4月23日の長崎新聞には、次のように書いていました。

長年、金崎龍踊り保存会の会長を務めてきた池田忠恕さん(98)は「大切に継承し、活用してくれる学校や団体などに無償でお渡ししたい」と話し、引き取り手を探している。

池田さんによると、同地区の龍踊りは明治初め、住民らが長崎に出向いて習ったのが始まり。以来、戦前戦後を通じて地域の行事などで娯楽として披露されてきた。同地区はかつて、大工など職人が多い地域として知られ、龍や道具は住民の手作りだったという。

現在、地元の上金崎公民館に保管されている全長 17メートルの青龍、白龍、子龍の 3 頭と衣装や銅鑼(どら)などは住民がお金を出し合ったり、公共団体の助成金を活用したりして、1991 年以降、段階的に買いそろえた。99年11月の北高高来町(当時)新庁舎落成式でも勇壮に宙を舞う姿で会場を沸かせ、古里の新たなスタートに花を添えた。

隣近所で農作業を加勢し合った光景が時代の流れや機械化で見かけることが少なくなる中、本番に向けた練習や出演を終えた後の懇親会は住民融和の場でもあった。だが、同地区の龍踊りの場合、1回の出演には交代要員も含め、龍を操る龍衆と囃子方(はやしかた)など合わせて「200 人近くの手が必要だった」(池田さん)。住民の高齢化が進み、子どもたちも部活動や塾などで確保するのが難しくなり、2014 年の夏祭りを最後に、その姿は見られなくなった。

昨年末に住民の間で処分の話が持ち上がり、引き取り先を探し始めた。目立った傷みはなく、状態は良好という。譲渡先は県内外を問わない。池田さんは「龍踊りを通じて地域の一体感が育まれてきた。龍や道具には住民の思いが詰まっている。その思い、伝統を大事にしてくれるところに譲りたい」と話している。

この新聞を読んだ、龍踊り指導者の百田さんは、「高田中学校で譲渡のお願い申し出をしてみてもどうか?」と連絡をくださいました。

私は、この新聞記事を読んで、金崎地区の皆さんの龍踊りにかける思いと、高田中学校のこれまでの歴史が重なるように思いました。高田中学校は、開校当時から龍踊りとコッコデショを学校祭で披露してきました。生徒数減を受けて、コッコデショは2012年度を最後として、その後は、3年生全員で龍踊りを披露してきました。

青龍、白龍ともに生徒の手作りで、うろこは牛乳パックを使って作り、6年に1度ぐらいのペースで作り替えが行われてきました。現在の龍は、昨年新調した白龍が5代目であり、今年、金崎地区から頂いた青龍も5代目ということになります。高田中学校の龍も、代を重ねる間に、少しでも本物に近づけるために、長崎駅に飾られた本物の龍を参考にして、うろこ作りや骨組み、龍頭や尻尾など、様々な工夫を行ってきました。

そのように、本校では毎年、龍踊りを通して、感動と感謝を表現し、伝えることで地域と自分自身のつながりや地域の大切さ、母校への愛情を培ってきたと考えています。

学校の伝統として龍踊りを継承してきていること、本物に学び本物に近づく努力をしてきたことを、金崎龍踊り保存会の方に伝え、その思いをくみ取っていただいたことで、青龍を寄贈していただいたのだと思います。

学年の生徒数は減少し、気候は観測史上例を見ないほどの暑さが続くなど、龍踊りを習得して演じていくには、とても過酷な条件の下で、3年生は日々、努力してきました。

しかし、生徒たちは、このような素晴らしい龍を託していただいたことをこの上ない喜びとして、龍踊りへの熱意は、とても高まっています。そして、金崎地区の皆様「龍が生き生きとしている」と言っていただける龍踊りを披露したいと思っています。

当日は、きっと、2体の龍が高田の地に舞い降り、喜びと感謝に満ちた素晴らしい舞を演じると思います。どうぞ、楽しみにしてください。



駐車場の有効活用へのご理解とご協力のお願い

各家庭で、駐車券希望の予備調査や本調査に、ご協力くださり、ありがとうございます。高田中学校周辺が整備されており、これまでのような路上駐車は、安全確保や道義的な観点から許されないものと考え、駐車券を発行して、駐車場を有効活用しようと考えました。来週には、駐車券を発行する予定です。そこで、お願いです。学校近隣の方は、徒歩での来校となるのですが、もし、駐車券をもらった家庭で、乗車人数に余裕がある場合は、徒歩の家庭にお声掛けいただき、乗り合わせの協力をしていただけないでしょうか。そのような、保護者同士の支え合いや結びつきも、学校行事のよい思い出になると思います。どうぞ、ご理解とご協力をお願いします。